

庄内麦情報

第1号

令和5年4月14日
庄内総合支庁 農業技術普及課
TEL(0235)64-2103
FAX(0235)64-2104

遅れずに赤かび病の防除をしましょう！

気象庁によると、4月14日頃からかなりの高温（5日間平均気温平年差+2.7℃以上）が予想されています。気温が高い日が続くと出穂期が予想よりも早まるので、圃場をよく観察して適期に赤かび病防除を行いましょう。

防除は①開花期（出穂期の5～7日後）、②1回目防除の7～10日後が適期です。



写真1 罹病した「ゆきちから」

赤かび病とは・・・？

赤かび病は、ムギの開花期に赤かび病菌が穂に感染することによって起こる病害です。収量や品質を低下させるだけでなく、人や家畜に対して有害なカビ毒を生成します。農産物検査において、赤かび粒が0.0%を超えて混入してはいけません。

病斑部には桃色のカビが見られ、後に黒色の小粒(子のう殻)を生じます(左写真の赤丸)。主に穂を侵し、出穂期～乳熟期にかけての多雨条件で発生が助長されます。被害子実は白っぽいクズムギになります。

適期防除を徹底し、赤かび病の発生を防ぎましょう。

▶大麦・小麦の赤かび病に適用のある剤

シルバキュアフロアブル、チルト乳剤25、トップジンM水和剤、トップジンM粉剤DL など
※農薬の使用に当たっては、使用方法等をラベルで確認し、ドリフトに注意しながら適切に使用して下さい。

幼穂長と気象情報を確認して防除の準備をしましょう！

管内の大麦・小麦ともに昨年より出穂が早まると予想されます。

表1 令和5年度の麦の出穂予測と赤かび病の防除適期の目安

品種	幼穂長 (mm)	調査日	令和5年の出穂期 (予測)	昨年 の出穂期	令和5年の赤かび病防除の目安	
					1回目	2回目
大麦 (シュンライ)	35	4月6日	4月15日頃	4月27日	4月20日 ～4月22日	1回目防除の 7～10日後
小麦 (ゆきちから)	15(平坦)	4月10日	4月29日頃	—	5月4日 ～5月6日	
	0.5(山間)	4月10日	5月19日頃	5月20日	5月24日 ～5月26日	

※大麦：三川町土口、小麦：鶴岡市西郷（平坦）、羽黒町手向（山間）、普及課調べ
アメダスデータ鶴岡の日平均気温の平年値を予測に用いた。

圃場ごとの生育状況や今後の気象により出穂期は前後します。実際に幼穂長を測り、表2を参考にして圃場ごとの出穂予測日を確認しましょう。

表2 幼穂長と出穂期までの日平均気温の積算値(宮城県古川農試の推定式から計算)

日平均気温 の積算値(°C) (出穂前日数)	分類	幼穂長(mm)					
		1	5	10	20	30	40
	大麦(シュンライ)	402(33)	258(21)	196(16)	134(11)	98(8)	72(6)
	小麦(ゆきちから)	443(36)	302(25)	241(20)	180(15)	145(12)	119(10)

※出穂前日数は、4月下旬の平均気温（平年値、12.4°C）で推移した場合の日数

追肥で小麦の品質・収量を高めましょう！

小麦:「ゆきちから」では、強力粉として適正なタンパク質含有率（11.5～13.0%）を確保し、増収を図るために追肥を行いましょ。

①減数分裂期

出穂8～10日前の葉耳間長±0cmの株が圃場の50%となった時期(幼穂長30～50mm)に窒素成分2kg/10aの追肥を行います。

なお、「ナンブコムギ」ではこの時期の追肥は倒伏につながるため追肥を行いません。

②穂揃期

およそ80%の穂が出た日を穂揃期といい、この頃に草丈90cm以下かつ止葉の葉色44（SPAD）以下の場合、窒素成分2kg/10aの追肥を行います。

※穂揃期の追肥は、倒伏を防止しながらタンパク含有率を高めるため、生育診断に応じて実施する。



新着情報をFacebookやTwitterでお知らせします。 <https://agrin.jp/>

やまがた
アグリネット



Facebook



Twitter



春季農作業事故防止運動実施中！

4月10日～6月10日

ヘルメット・シードベルトも着用！

安全キャブ・フレーム

反射板

低速車マーク

